



豊後大野市教育委員会

会 議 要 録

会議名：平成 29 年度 第 5 回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会

日 時：平成 30 年 1 月 26 日（金）18：00～18：48

場 所：豊後大野市中央公民館 第 1 会議室

欠席者：田原靖憲副委員長、佐藤和夫委員

1. 開 会

社会教育課長	皆さまこんばんは。本日はお寒い中、また夜分にお集まりいただきありがとうございます。本日は田原副委員長、佐藤（和）委員が欠席です。それでは、第 5 回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会を始めさせていただきます。どうぞ、よろしくお願い致します。それでは、渡部委員長からご挨拶をお願いします。
渡部委員長	皆さん、こんばんは。大変お寒い中ご出席いただきありがとうございます。本日はいよいよ答申ということになった。これもひとえに、皆さんの豊後大野の図書館及び資料館をより良いものにしていくというそれぞれの立場からのご意見、熱い意見の賜物だと感謝申し上げます。私はよく松尾芭蕉の不易流行という言葉を使う。変えなきゃいけない部分と、変えてはいけない部分でいくと、この答申は今後の運営方針の指針になる非常に重要なものになると思っている。氷山に例えると氷山の下の部分、水面より上に見えるのは、学力で例えるなら目に見える学力ということで岸本浩さんという方が仰っているのだが、氷山の下部分をしっかりと蓄えると、上にしっかりした学力が備わるということで、これから豊後大野の方々の今後の知恵を絞る装置としての役割をしっかりとする。これまでの積み重ねを更に展開が望めると私は思っている。全国の図書館も、資料館も立派に機能しているところは少ないが、私がいつも申し上げているところで、北海道の斜里町というところが博物館も図書館も立派に機能している。その斜里町は世界遺産とか自然環境とか恵まれているのだが、北海道の辺境の地にある。そこの、資料館や文化活動が充実しているために消滅する自治体にカウントされてない。そこの教育長と親しくさせ

	<p>ていただいているが、本物を目指したいと、そういうものが外の人の目に触れてより住みよい町になっていると仰っていた。豊後大野も確かにそういう部分があるんだが、この新資料館・図書館もこの役割を担う重要な拠点だと、そうした今までの積み上げを更に発見するべく答申内容になるんじゃないかと思っている。これまでも資料もお渡しして議論をしてきたので、今日は今までの経過を踏まえたうえで最後のご意見をいただければと思う。どうか、皆さんの積極的なご意見をいただき、会を進めさせていただきたいと思うので、ご協力をよろしくお願い致します。</p>
社会教育課長	<p>委員長ありがとうございます。早速、協議事項に移ります。ここからの進行は渡部委員長にお願いします。</p>
渡部委員長	<p>すでに、皆さまのお手元に基本計画書案が事務局から届いているかと思う。今までの中に多少文章を変えている部分がある。その部分も含めて事務局から提案をいただければと思う。</p>
事務局	<p>細かい部分については割愛させていただきます。細かい部分の数字や表現について、例えば 1 ページ目の資料館・博物館表 3 ですが、こういった部分はきちっとした名前を表示をさせていただいたりだとか、人数の変更等です。大きな変更はありません。若干 6、7 ページについては、吉岡委員や事務局で気づいた点を修正させていただきました。中身については変えておりませんのでこの内容で答申書案とさせていただきました。</p>
渡部委員長	<p>今事務局から説明があったが、前回の記憶では、一枚ずつ資料を確認してご意見をいただいたと思うので、今日は事務局の方から提案いただいたが、全体の中で意見があったらお出しただければと思う。ポイント的には、面積の半分とどういう組み合わせをするかということは前回にも提案していただいていたかと思うが、B案でいくとくつき方がどうだったかとかいうようなことがあったりして、そういう大きなゾーン構成と、資料館は展示ストーリーというものが大きな流れかと思うがいかがか。</p>
後藤（綾） 委員	<p>前回、豊後刀という刀の展示があったと思うが、あれはどのゾーンになるのかと思ったので、質問である。</p>
渡部委員長	<p>展示の中のどこかに入っているのではないかと、どうか。</p>
高野係長	<p>あれは、色々あって全部拾いあげるのとは不可能なので、より細かいところは基本設計の中で拾っていくかと、どうしても拾えない場合は企画展示とかそちらの方でカバーしていくかという話になっていたかと思います。</p>

工藤委員	2 ページ目の B 案のところで、図書館の職員が出入りするところがあるようだが、資料館は別の出入口はもう無いのか。
高野係長	20 ページの灰色に塗っているところでポイント 3 とか書いてあるところは、図書館と資料館の入口を兼ねています。そこから、右側に行くと展示空間から受付、職員がいる場所（部屋）というイメージですね。
工藤委員	それはわかるが、この B 案のところでは矢印が三つあって上の方にスタッフっていうところに矢印がある。これは、図書館の職員が管理するための出入口なんだろうと思うが、資料館は主な表玄関からしか資材の搬入とかが出来ないかという、別途、物の出入口はないのかっていう質問である。
渡部委員長	荷解き室とかバックヤードの入口である。
高野係長	例えば 20 ページでいきますと、ゾーン 7 のところに出入口があったりとか、収蔵庫からの出入口だとか、ポイント 1 と書いているところは車を横付けしたりしてシャッターがあって荷ものを搬入できたり、人間が出入りしたり荷ものを持ち込んだりできるという、そういうイメージになっております。
工藤委員	それは、あえて表記しなかったということか。
高野係長	そうですね。当初のものには入っているからここしかないようなイメージですね。▼の印を増やしたいと思います。
渡部委員長	資料館のところに赤の印を作ればいいだけではないか。
工藤委員	そうだが、図書館の分は管理室というところで矢印をつけているのに、資料館には無いからあった方が分かりやすいんじゃないかなと思った。
高野係長	ありがとうございます。
渡部委員長	これは、付け加えればいい話である。梓設計さんお願いします。
赤嶺委員	豊後大野市の郷土の歴史とか伝説とかを最初の方に言ったと思うが、芦刈政治先生が収集していたもので（仮称で）芦刈文庫、これまで収集していたものの収蔵庫、閲覧室はどこにあるのか。
渡部委員長	個人コレクションについては、資料整理の段階で芦刈先生の資料だということをデータ上で記せるようにすると、どこにあってもそれがすぐえるような状態のものが今の運営の方法である。それがバラバラにならないということはちゃんと目録を作っているということ。ちゃんとデータ上で管理するという。芦刈先生の集めたものを全部見た訳ではないが、ものによっては保存環境が違っているものとかがあって、同じところに同じ所有物として

	<p>並べることになると防虫対策や保存管理上、不都合なことが起きてくる。普通は同じ環境下のものを置くということになるが、塊が見えないと無意味なので目録がしっかり作れることが前提でそれをオーパックと言われるコンピュータの検索システムで、例えば図書館のどこに芦刈先生のコーナーがあるだとか、資料館に保管していると見える形の可視化が絶対必要になる。今までそこまでやってこなかったということがあって、寄贈者にとっても自分の資料がどこにあるのかは、今のシステムでは拾えるような状態になっているので、まずは地味な作業になるが、データづくりをしっかりと、多くの方に芦刈コレクションはどれくらいのボリュームがあって、どんなジャンルのものがあるのかが可視化できるようにやらないといけない。それをやらないと集めた意味がないし、ご寄贈していただいた方の意思にも反するし、そうした努力が求められると思う。全部の全体図が明らかになった時に、企画展とか芦刈先生のコレクションをあちこちの棚から持って来てすぐに展覧会ができることが可能になるので、前提としてデータベース化が欠かせないので、これは今後事務局の仕事になるかと思う。ご了解いただきたい。</p>
佐藤（珠） 委員	<p>現行の図書館は祝日が休みであるが、祝日も開けてほしいという意見があった。新図書館も現在の体制でいくのか、新しくなる前に祝日はどうするのかお伺いしたい。</p>
太田係長	<p>ワークショップの中でもそういう意見をいただいたんですが、祝日開館となりますと、働いている者の給与保証等もありますので、体制等々が整った中での、今後の考え方になってくるかと思えますので、前向きにそこは検討していきたいと考えております。</p>
渡部委員長	<p>事例からいうと全祝日を閉館しているところもあるし、開館しているところもあるが、子どもの日や文化の日などそういう祝日は意図的に開けるところもある。今後運営上のところで議論をしていただければと思う。24 時間開館をしたらどうかという議論もあるが、先日の日曜日に和歌山県のフォーラムがあって、県民の方から問い合わせがあったが、事例としてお答えしたことがあって、山口県の須佐町というところが 24 時間オープンの図書館で 1980 年代の頃にやって、あとは清里町というところがあって、実際私も見てきたが、たしかに大変便利なのであるが夜中の 2 時頃利用するのを想定するとほとんどいない。大概が土日利用</p>

	<p>される。豊後大野市のあたりだったら通常 17 時に勤務を終えてから来られる範囲となると 1 時間利用可能であるので、利用者の方々と職員の労働環境を考えた上で、運営面やそれぞれの整合性を考えた時の対応が考えられると思う。</p>
後藤（順） 委員	<p>赤嶺委員が言われたことの関連なのだが、芦刈先生の残されたものは、三重町、豊後大野にとって重要な地方誌がいっぱいある。そのことを言う前に、私が卒論を書く時に伊藤東先生という方がいて芦刈先生のまた先生みたいな有名な方がいて、私が尋ねる度に大きな棚から本を取りだして教えてくれた。それが秋葉文庫として先生が亡くなった時に残したことになっているが、それがどこでどうなったのかが分からなくなってしまった。それで、芦刈先生の残されたものは持ち出さないで、研究できるコーナーが是非欲しいなど。いつか、アンケートを出した時にそれは書いて出したつもりなんだが、地方誌のことがたくさんあるので芦刈文庫みたいなのを是非お願いしたいと思う。</p>
太田係長	<p>今の意見なんです、伊藤東先生のものに関しては県図書の方に遺族の方が最初に見せられまして、県図書に必要なものを先に置いて、その後の分を旧三重町がいただいてそれから目録を作って保管しております。何々文庫というのは寄贈していただいた方全てのものに何々文庫とお名前をつける訳にはいきませんので、貴重書に関しては目録を作って保管している状態です。芦刈先生のものに関してもデータ化をしまして、今後新館にも保管できたらいいのではないかと考えております。</p>
渡部委員長	<p>なかなか、御理解難しいかもしれないが個人の名前でやると重複するものがどんどん出来て、図書館の性格上分類毎に配置しないといけない決まりがあることと、個人のコレクションとバッティングした時にその分野の棚が薄くなってしまう時があるので、それをコンピュータですくい取れば、どこに何があるか芦刈先生のものでどこにあるのかが分かるので、それは今後の工夫だと思う。図書館の基本的なスタンスと個人のコレクションの境界というか、それは今後どのレベルの個人コレクションをどう形成するのは、ルールを作って運営にいかしていく。ただ、町民や市民の方の思いが強いので目録を作る時に工夫が必要かもしれない。</p>
藤内委員	<p>開館時間が図書館と資料館が異なるが、これは現時点での開館時間を書いていると思うが、新しい館になると入った時に右と左に別れるので、それぞれなんだろうけれども、どちらか（の時間）</p>

	をずらして（開館時間の差の）幅を狭めるとか、資料館の 9 時からというのもどうなのかということもお伺いしたいし、シフトとかを組む時に人件費とかも上がってくるかと思うのでどうかなとご意見をお伺いしたいと思う。
高野係長	資料館の職員は図書館に合わせても構わないと言っております。一方は開いていて、一方は閉まっているとかは良くないと思うのでその辺りはちゃんとしたいと思っています。
渡部委員長	併設された件でいうと、滋賀県に博物館とセットになっているところがある。図書館に開館時間を合わせている。図書館もずっと開いているし、資料館も休館日が一緒。特別行事のときには図書館だけ開ける、資料館だけ開けるということもある。そこは、運用の段階でクリアできると思う。
工藤委員	以前、このレイアウトの図を見た時には高齢者や身体障がい者に優しい畳の空間があったと思うが、それが無くなったのかということと、5 ページを見た時に図書館が何㎡、資料館が何㎡とあるが、今日見た限りでは資料館は 583.44 ㎡しかないが、これは 2 階も含めた数字なのか、任意の㎡の数字を書きおいた方が既存改修の数字にあってくるのではないか。
梓設計	まず、一つ目の質問の、畳コーナーですが一般開架の左上のくつろぎコーナーというところの設えの一部を畳に変えるとか、そういうことを今後考えていこうかというふうに考えています。面積については確かにご指摘の通り既存施設と書いているところに 583.44 ㎡と書いているので、2 階の面積を追加したいと思います。
渡部委員長	畳のコーナーは高齢者の方にも優しいということになるが、実は同志社大学のアクティブラーニングという脚光を集めているコーナーがあるが、それは若者に対して畳のコーナーがあって稼働式の畳である。そこは実施設計の段階で設計者の方々に考えてもらってお願いできればというふうに思っている。とりあえず、くつろぎコーナーに設置するというので。面積配分につきましては詳細なものをいただければと思う。ほかはないか。
赤嶺委員	今日でなくてもいいが、財源内訳がわかれば教えていただきたい。
事務局	今のところ新しい施設に関しては、まだ詳細な数字を積み上げた訳ではありませんので、今現在の相場で 1 ㎡あたりいくらでかけているということになります。

赤嶺委員	そうではなくて、財源の内訳、補助金と合併特例債の内訳が分かればということ。
事務局	以前も言いましたが、補助金は無いので合併特例債、7割が交付税で返ってくるいわゆる借金と、その他の一般財源で考えております。ただし、改修部分については平成 32 年度以降に改修になっておりますので、その部分が基金等を活用するようになるのか、まだそこまでは詰めていないんですが、昨年 12 月に合併特例債の延長をという話があり、若干流動的になってはいますが当然豊後大野市も財政が豊かではありませんので、有効的な借金を使いながら整備していこうと考えております。
赤嶺委員	具体的な数字はまだ分からないということか。
事務局	工事費等はまだ議会に諮っていないので、今のところの答申段階というところで留めさせていただきたいと思っております。
渡部委員長	お手元にも資料が届いて、多くの方々の意見をいただいたので、これは基本ラインなので、先程財源のこともでたが、畳のことは後で修正可能なことであるので、一応大枠でこれでよろしいかどうか確認をいただこうと思うがいかがか。これまで議論を踏まえたことであるので、ご異存がなければこれを答申書として提出したいと思うがよろしいか。(異議なしの声有)
社会教育課長	まだまだ詳細については、事務局の方で点検していきたいと思っております。それでは、教育長が参りますまでしばらくお待ち下さい。 ～～下田教育長到着～～ それでは、答申書を手渡したいと思っております。渡部委員長から下田教育長にということですのでよろしくお願い致します。
渡部委員長	答申書、平成 30 年 1 月 26 日。豊後大野市教育委員会教育長下田博様、豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会委員長渡部幹雄、平成 29 年 9 月 22 日付、教社第 0922003 号をもって諮問のありました、豊後大野市図書館及び資料館の建設について慎重に検討を行った結果別紙の通り答申します。よろしくお願い致します。
社会教育課長	ありがとうございました。それでは、教育長から謝辞を申し上げます。
下田教育長	みなさん、こんばんは。大変お寒い中ありがとうございます。第 5 回ということで最終の検討委員会になりましたけども長い間議論していただきました答申をいただきましたので、本当に重ねてお礼を申し上げます。謝辞をということで原稿を考えてきまし

たので本日はお時間をいただいてきちんとご挨拶をしたいと思
います。昨年 9 月 22 日に第 1 回豊後大野市図書館及び資料館建
設検討委員会の開催を申し上げまして、その際に検討委員の皆さんに基本設計に繋がる基本計画の策定について諮問をさせてい
ただきました。それから 4 回にわたる会議、それから市内 3 カ
所での市民ワークショップの開催と様々なプロセスを経てこの
結果に至ったと推測いたしております。渡部委員長をはじめ、委
員の皆さまにおかれましては、お忙しい中たくさんお仕事がある
傍ら、貴重なお時間をいただいて本事業の実施についてご尽力を
いただきましたことに心より感謝申し上げます。本日ここにいた
だきました答申書には皆さんの英知の結集であると認識をして
いるところです。何度か会議を傍聴させていただきましたが、あ
らゆる角度からの意見を拝聴し、まさに当初の答申書にもありま
した“地域と人と地がともにつながり成長していく拠点”として、
“昔、今、未来をつなぎ、発見、伝承、発信していく”というコ
ンセプトにより近づいたのではないかと考えております。余談で
すけど、事務局と今回の答申について一言で言えるようなキャッ
チフレーズはないかと事務局の小野に尋ねました。そうすると、
一言では語りきれないんですが、渡部先生が仰っていた“成長す
る図書館・資料館”でしょうかということ、検討委員皆さんに
浸透し共通の思いになったのではないのでしょうかと申し上げてお
りました。私は組織の中において、「成長する図書館・資料館」を
標榜しながらも、個人としてはそれに加えて私はワクワクドキ
ドキという言葉の間使っておりますが、“学んでワクワク、
紡いでドキドキする学びの杜（もり）”を目指していけたらいい
なと考えております。教育委員会としては、つぶさにこの答申書
を拝見します。建物本体の礎となる基本設計や実施設計につなげ
て参りたいと思っておりますが、総工費が約 20 億円の事業費と
なります。今後議会や市民の皆さんのご理解や協力が不可欠にな
りますし、教育委員会も基本計画案の通りに 100%のものが建設
されるように努力をして参りたいと考えております。本当に答申
をいただきましてありがとうございます。本検討委員会の皆さん
が所掌する事務は本日を持って終了ということになります。委員
の皆さまも職を解かれることとなりました。重ねて委員の皆さん
におかれましては、これから一市民として、また一利用者として
引き続き助言を賜りたいと存じております。結びに検討委員会

	委員の皆さまのこれからのますますのご発展とご健勝をご祈念申し上げまして教育委員会を代表しての謝辞とさせていただきます。本当に長い間ありがとうございました。お世話になりました。
社会教育課長	ありがとうございました。ここで、事務局より今後の日程についてご説明致します。
事務局	2月7日に今回の答申を受けたことを踏まえた上で議会全員協議会において議会へ説明を行います。それを受けて、市民の皆さんの意見を聞くためのパブリックコメントを3月中に開催します。設計の完了は9月中を目途とし、それから議会等を経て12月に工事に着手し、図書館の開館につきましては、32年の9月、資料館の開館につきましては33年の1月を目標に準備していきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。
社会教育課長	以上で本日の日程の全てが終わりました。最後に渡部委員長から閉会につきましてご挨拶を賜りたいと思います。
渡部委員長	本当は私じゃなくて、副委員長があいさつを申しあげるところだったが、私からお礼を申し上げたいと思う。私の力不足から皆さんに不快な思いをさせたり、皆さんの思いが届かなかった部分があるんじゃないかと反省しているところであるが、私は他の自治体でいくと前も申し上げたかと思うが、業者さんがドラマを作りどこの市かわからない、表題だけを変えるようなものをたくさん見てきた。そうしたものからすると手作りで皆さんの思いがたくさん詰まった答申内容じゃなかったかなと思う。沖縄にブリデーという言葉があって、皆でという言葉だが、皆で考えた資料館づくりに成功した沖縄の名護市の博物館、これは、住民参加型の博物館でそれから地域の歴史を掘り起こしたりして、それは図書館も機能し、市史編さんにもつながったりして見事な活動を展開されている。これは、行政が一方的にやる仕事ではなくて、住民自らがやる仕事。上司から命令されてするのではなく、主体的に取り組んでいくということが前提にある。今後、これが実現するためにはそれぞれがさせられているという気持ちではなくて、する気持ちになってやっていくと他にない素晴らしいものになってくる。私も他のところをたくさん見させていただいたけれど、住民とキャッチボールする資料館・博物館等々は成長していくものに繋がってくる。それをどうこの答申を踏まえてやっていくかが豊後大野市の魅力づくりに必ず寄与されるというふ

	<p>うに思っている。私共は今日で役は終わりだが、この答申内容が実現するように温かい気持ちで今後の活動を見守っていただきたいと思う。最後になるが、皆さま方のご多幸をお祈りして最後の挨拶とさせていただきたいと思う。長い間ありがとうございました。</p>
社会教育課長	<p>渡部委員長をはじめ、委員の皆さまありがとうございました。以上で、第 5 回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会を終わります。大変長い間ありがとうございました。</p>